

## ブエノスアイレスで流通する債券パタコン

泉 留維

現金が町の中から消え去ったら、あなたは どうやって生活をしていきますか。今、アルゼンチンはまさしくそのような状況に陥ろうとしています。91年に「兌換法」を制定し、国内通貨供給量は外貨準備高に応じて自動的に調整され、米ドルとペソが同時に国内に流通するようになりました。当初は、ハイパーインフレを抑え、為替レートの暴落を防ぐための方策で、確かに有効に機能しました。首都圏における消費者物価上昇率は、90年の2,000パーセントから91年には100パーセント台、92年には10パーセント台まで低下しました。ただその裏では、対外債務が急激に増え、国際収支も赤字に転じ、IMFが登場するまでに至っているのです。2001年1月にIMFは、アルゼンチンに対して4000億ドルという巨額救済融資を約束しましたが、すさまじい緊縮財政政策を要求し、皮肉なことにアルゼンチン経済はIMFによってとどめを刺されそうになりました。

外貨準備高も減少し、それに伴って正貨(ドル・ペソ)の流通量が減っています。そのため流動性が不足し、生産物が売れず、換金できず、市税徴集に差し支えてきたブエノスアイレスから南へ450キロ、マルデルプラタ市とバイアブランカ市の中間にある人口1万のゴンサレス・チャベス市では、「何でも良いから99年度の滞納税金を支払うように」と市条例を改正すると、1ヶ月間に牛2頭、鶏5,000羽、卵320ダース、パン480キロ、小麦粉550キロ、煉瓦9,000個、ガソリン6,000リットルなど15,000ドル相当の品物が収められと報道されています。この内、食料品は、貧困家庭450家族への食糧補助に使用し、市の予算を節約しているそうです。

物納で税金を代替するばかりでなく、もっと経済にコミットして、正貨がなく流動性が足りないのなら、自分たちでお金を作り出してしまうという取り組みが、実はアルゼンチン各地で始まっています。まず挙げられるのが、市民サイドで自発的に始められたRGT (Red Global de Trueque: グローバル交換サークル)でしょう。95年に始まり、アルゼンチンの経済状況の悪化の中で、急速に地域コミュニティに浸透し、現在では60万人以上の参加者がいると報道されています。そしてもう一つ、地方政府(ブエノスアイレス州政府)が発行しているパタコン(Patacon)と呼ばれるものがあります。このパタコンは、2001年8月下旬から貨幣的に流通し始めたブエノスアイレス州の州債の名称で、パタゴニア地方にちなんで名付けられました。その紙券は、法定貨幣であるペソに非常に類似していて、1ペソ相当の額面の紙券(写真)から始まります。ブエノスアイレス州は、アルゼンチン3700万人のうち40%が住んでいる最大の州で、経済不振による税収不足で財政難が深刻化した中、ラカウフ州知事が、新しい債券を印刷するように州の印刷局に命令したのです。5億ペソ相当の新しいパタコン紙幣が印刷され、15万人以上いる公務員への給料支払いや出入り業者への支払いとしてまず使用されました。ちなみに、開始1週間で9000万ペソ相当のパタコンが市中に出ていったそうです。このパタコンは、州債であり、2002年7

月 25 日に 7 % の利息をつけて政府が償還することになっています。ただ、この償還期限は、最近、年率 7 % の利回りは保証して 2006 年まで延長となりました。

パタコンは、月に 740 ペソ以上の所得がある州の公務員、おおよそ全体の 30 % に対しての賃金支払いで主に市中に出ています。これも州政府の財政が悪化したせい、10 月の給料の支払いから、この所得制限がなくなり、ブエノスアイレス州の全公務員はパタコンで賃金の一部を受け取るようになりました。

パタコンが使用できる場所は市中いたる所にあります。例えば、税金の支払いや市役所の諸処の手数料、高速道路料金（全額）や鉄道料金（全額）、電話や水道などの公共料金（30 % 程度）で使えます。また、マクドナルドでは、パタコン流通が始まるとすぐに 5 パタコンの「パタコンボ（Patacombo）」というセットメニューを始めました。地元の大手スーパー・コトではパタコンでの支払いを 100 % 受け入れていますし、多くの商店が「パタコンを受け入れます」というステッカーを店頭に掲げています。ちなみに、パタコンはブエノスアイレス州政府が発行しているものですが、ブエノスアイレス州に含まれないブエノスアイレス市（首都特別区）でも、多くの商店などでパタコンが受け入れられています。

野党正義党の経済の専門家であるレニコフ氏は、「アルゼンチンにとって最悪の事態はデフォルト、次に悪いのはドル化、これはアメリカの金融政策に従属するばかりで、アルゼンチンのリスクが低下する保障は全くない」と反対し、国内で流通を開始したブエノスアイレス州の債務証券「パタコン」に対して「このような非兌換通貨が排気弁となり、アルゼンチン経済を救うのではないかと述べ、元副大統領のツハルデ上院議員も同様の意見であった、と報道されています<sup>1</sup>。ただ、7 % のプラスの利息が付くことで、今のところそのような傾向は出ていないようですが手元に保持していくことに利点を感じ、タンス預金化されないととも言えません。州政府の財政悪化という面もありますが、消費を刺激するために発行されたのですから、マイナスの利子を導入し、政府が発行する印紙を貼付しないと、翌月には有効でなくなるという仕組み（償還資金を回収できる面もあります）を導入することも考えるべきでしょう。また、パタコンの価値を現在はペソ、すなわち米ドルにリンクさせていますが、先んじて世界市場で取り引きされるであろうカーボנקレジットにリンクさせ、環境面を考慮したものにするなどの創造性を発揮させることも望まれます。

### 写真：1パタコン表



<sup>1</sup> <http://www5b.biglobe.ne.jp/~bravo/131029.htm>